

● 塩尻現地所長夫妻「世界ナゼそこに？日本人」に

「大切な人の死を乗り越え、ケニアの貧しい子ども達を救う日本人女性」と題して、5月25日放送のテレビ東京系の番組「世界ナゼそこに？日本人」で、塩尻安夫所長、美智子夫人が取り上げられました。



【25年ケニアで活動続ける塩尻夫妻】

塩尻夫妻は ACEF の活動に参加するため、1990年4月に家族7人でケニアに移住。その年の11月、長女・直美ちゃん(当時9歳)をマラリアで亡くしています。

ケニアの平均年齢は56～7歳で、その原因は、幼児の死亡率が高いせいだと言われています。私たちが活動の中で知り合った人々の中にも、子どもが5～6人の家族が多いですが、その中には、マラリアなどで幼少期に子どもを失くしている家族も多いのです。ケニアの一般的な診療所には、医師はいても、検査機器も薬も置いていません。医師は診察はしますが、検査となれば、別の検査機関へ出向かなければなりませんし、その検査結果は1～2時間待たされることもしばしば。その後、結果を持って再度診療所に戻り、医師から処方箋を貰い、街の薬局で薬を購入するのです。交通費がなく病院が遠くて行けない、現金収入がなく受診料が払えない。そのような現状から病院へ行けず、亡くなる人もいます。しかし、診療所へ行っても、薬すらない状況で、その間に子どもの容態が急変し、亡くなるケースもあります。もし同じ診療所内で検査を受け、その結果が即時に出て、その場で薬をもらうことができれば、どれだけ尊い命が助かったか。現在、ACEFは、医療部門として、一般診療科、レントゲン科、産科などを備え、迅速な検査ができ、安価でも質のよい薬を常備した診療所を3か所と、ケニアが直面しているエイズ問題に対応できるエイズケアセンターを運営し、地域ではなくてはならない存在になっております。

塩尻所長夫妻は直美ちゃんの死を乗り越え、ケニアでの活動を続ける決心をし、これまでの25年、ACEFの活動を支えてくださいました。

これまで診療所運営している中で、エイズで親を亡くし孤児となってしまった子どもたちが、祖母やおばに引き取られてはいても、差別や偏見を受け、学校にも通えない。更には中には出産時の母子感染により、自身もエイズ陽性の子がいても、養育している祖母たちにエイズの知識が乏しく、無料で提供される免疫を保つための薬すら手に入れていない現状を目の当たりにし、「この子たちに『生まれてきてよかった』と思ってもらいたい。幸せになってほしい』との思いから、エイズ孤児の調査を行い、孤児施設を建設しました。調査の結果、エンブ郡には約300人ものエイズ孤児がいることがわかったのですが、まずは劣悪な環境にいる30人を引き受けるようになったのが、ジャンプ&スマイルセンターです。



【子ども達と美智子夫人】

エイズ孤児の子ども達を引き受けるにあたり、美智子夫人は、この子たちの親になる決心をしました。彼らは1人ひとりの人間なのです。状態が一時的に改善したからと、子ども達を祖母たちの家へ帰してしまえば、薬は飲まず、十分な栄養も与えられずやせ細って、目だけがギョロギョロとした、来所当時のあの状態に戻ってしまう。一旦、引き受けたなら、彼らが学校を終え、手に職をつけ、自立できるまで面倒を見る覚悟がなければ、引き受けられません。

現在はケニア人スタッフや美智子夫人の世話取りで、近隣の2つの小学校に分かれ、1.5～2kmの道のりを毎日元気に通っています。ここに来るまでには会ったこともない子ども同士ですが、時にはケンカもしながら、でもすぐ仲直りし遊ぶ姿が見られます。

学校でも帰宅後も熱心に勉強するので、学期末にクラス1位の成績で表彰される子も増えてきました。

小学校の先生からは「成績優秀者がジャンプ&スマイルの子たちばかりになってしまうと、賞品がみんな(ジャンプ&スマイルに)持って帰られてしまうわ!」と苦笑されたとのこと(美智子夫人談)。

テレビの反響は大きく、日本のテレビ放映では、特定の団体の利益にならないよう名前を出さない傾向もあり、番組内では当会の名前は出ていなかったのですが、テレビ局に問い合わせをしてくださった方、インターネットで検索してくださった方などから、続々と問い合わせや寄付を頂戴しました。この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

ACEF ジャンプ&スマイルセンター(エイズ孤児院)は、皆さまの支援金で運営しております。ご支援、よろしく願いいたします。

●ある日の午後

今日はみんなが大好きな川遊び。
スタッフの見守る中、みんな大はしゃぎです。

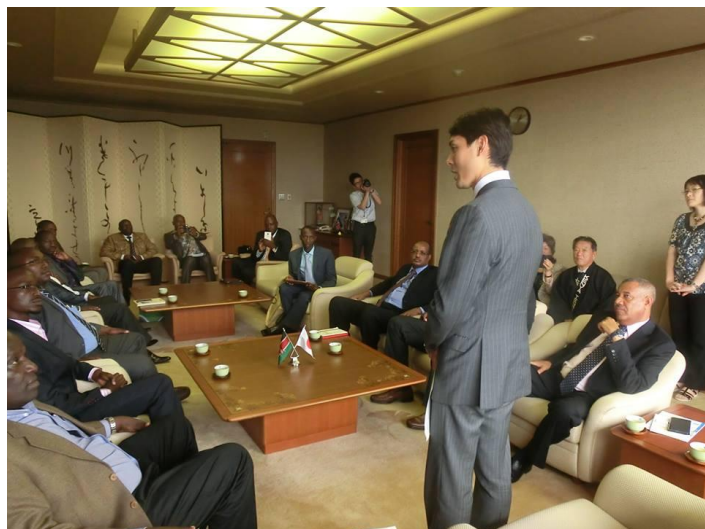


●ケニア訪問団 来日

6月22日～28日まで、ケニアより訪問団13名が来日しました。内容は、天理市長表敬訪問、ごみ処置施設、浄水場、消防署などの施設見学、EM体験など。

今回の訪問団は、ケニア国内の3つの郡(キアンブ、ニャンダルア、ラム)の代表の公式来日(経費は郡負担)。今後、ACEFが環境改善・保全で協力し、事業を展開していきたいと考えている地域も含まれていることから、ACEFがお世話取りをさせていただいた、という経緯です。

メンバーは、ラム郡からは知事、副知事、知事補佐官ほか、その他の郡からは、知事補佐官、消防・防災、環境水資源部署のトップが来ており、日本で得た知識を少しでも自国に持ち帰ろうと、見学中にも熱心に質問をしていました。



【並河健天理市長 訪問】



【天理消防署 訪問】

振込先: **郵便局**(窓口・ATM・ゆうちょダイレクト)から:

ゆうちょ銀行 振替口座 番号:00930-8-66355

口座名義人: アフリカ児童教育基金(アフリカジドウキョウイクキキン)

***領収書が不要な方**は、通信欄に「領収書不要」とご記入ください。

銀行から: ゆうちょ銀行 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 当座 **0066355**

口座名義人: アフリカ児童教育基金(アフリカジドウキョウイクキキン)

*銀行からの振込みの場合、氏名と金額しか確認できません。

領収書が必要な方は、住所、氏名を電話かメールでお知らせください。

作成・発行: (特非)アフリカ児童教育基金の会 ACEF 日本事務局 〒632-0063 奈良県天理市西長柄町 265-4

TEL&FAX: 0743-25-6935 電子メール: headquarters@acef-jpn.com

現地事務所 Africa Children Education Fund(ACEF) P.O.Box 1365-60100 Embu, Kenya

